

回覧

尾崎小だより No. 2

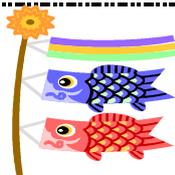
R3.5

みやま



薫風の候、皆様におかれましてはコロナウィルス感染拡大に対応しつつも、つつがなくお過ごしのことと存じます。

新年度を迎えた尾崎小学校では子供たちの新しい学年への希望に満ちた1ヶ月が過ぎました。緊急事態宣言が出され、体育館を使わない、学校外の活動はしない等規制の中での生活ですが、毎日元気に学んでくれています。「なりたい自分」を心に決めて、それに向かって日々生活してくれているようです。とはいえ、自転車の乗り方、交通マナー、公園での遊び方等指導すべき内容も多くあります。何か危険な行動があれば、その場でしっかりと注意してやってください。多くの大人に見守られて成長できることが、何よりも幸福な成長であり、地域ぐるみの子育てです。よろしくをお願いします。



曾参の母の故事



中国の古い歴史書に「戦国策」というものがあります。古代中国の春秋戦国時代の逸話を集めたものです。その一つに曾参（そうしん）の母の話があります。

孔子の高弟で親孝行で有名であった曾参、論語にもちよくちよく登場する人物です。同姓同名の人が殺人事件を起こしました。そのことを誤解して母に告げる人がいました。「曾参が人を殺した。早く逃げなくては・・・」と。子供を信じている母は笑って取り合いませんでした。しばらくして違う人が同じことを告げに来ました。母は笑って対応しました。また、しばらくして同じ内容を告げる人がありました。すると、母は機織りをしていた道具もほっぽり出し、すぐさま逃げ出した。という話です。

噂話の恐ろしさ、SNSでの人権侵害が新聞等でも取り上げられています。言っている人にも悪意がないことも多いと思います。しかし、言われている人には耐えきれない圧力となって襲いかかるものです。新型コロナウイルス感染が拡大している昨今、いつ、どこで、誰が感染してもおかしくない状況です。感染した人こそが被害者です。その被害者を追い詰めるかのような情報伝達は厳に慎みたいと思います。ワクチン接種が始まる今、このコロナウィルスとの戦いの正念場です。住みよい町尾崎には、心ない噂話でなく、早い回復を願う声が満ちていますよう願います。